

成果指標				
成果指標	老人保護被措置者数29人前後			
指標設定の考え方	一人暮らしや寝たきりなどの「要援護高齢者」の人口のうち「被措置者」の占める割合の全国平均から、伊予市において概ね適正と思われる人数を成果指標に設定した。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	29	29	29	0
実績	25	29	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	金銭面や環境面等において生活が困難な高齢者を入所措置し、安全に安心して過ごせるよう福祉の向上に努めた。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	C
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	高齢者施策として実施すべき事業であり、引き続き継続していく必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題